

2025 年度（令和 7 度）

シラバス

理学療法学科 夜間部

履正社国際医療スポーツ専門学校

開講年次		2年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	運動生理学			担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎藤田 誠也				
実務経験								
科目のねらい		運動生理学は、運動処方やトレーニングを実施することにより、現象と仕組みを学習する学問である。 本講義では、運動による呼吸、循環、代謝の変化を中心に生理学の基礎と応用について学習する。						
到達目標		①運動生理学に興味をもち、運動処方やトレーニングにおける身体の適応を生理学的に理解し、説明することができる。 ②活動(運動)を継続する上で必要となる運動耐用力について説明できる。 ③運動による呼吸の変化について説明できる。 ④運動による循環の変化について説明できる。 ⑤運動による代謝の変化について説明できる。						
回数	講義計画				予/復時間		内容	
第1回	筋の構造と機能1				0.5/0.5		①	
第2回	筋の構造と機能2				0.5/0.5		①	
第3回	運動と神経1				0.5/0.5		①	
第4回	運動と神経2				0.5/0.5		①	
第5回	運動と筋肉1				0.5/0.5		①、②	
第6回	運動と筋肉2				0.5/0.5		①、②	
第7回	運動の調節1				0.5/0.5		①、②	
第8回	運動の調節2				0.5/0.5		①、②	
第9回	エネルギーについて				0.5/0.5		②、⑤	
第10回	呼吸				0.5/0.5		②、③、⑤	
第11回	運動と呼吸				0.5/0.5		②、③、⑤	
第12回	酸素摂取量と酸素借				0.5/0.5		②、③、⑤	
第13回	運動と循環				0.5/0.5		②、④	
第14回	運動と体温				0.5/0.5		②、⑤	
第15回	まとめ				0.5/0.5		①	
教科書	なし。適宜、必要に応じて資料を配布する。							
参考文献	3訂版 運動生理学の基礎と発展							
授業方法	座学により実施。毎時配布する資料により授業を進行する。							
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ							
成績評価基準と方法		定期試験(100%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				基礎生理学や生物学の知識を復習した上で参加するようにしてください。				

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

開講年次		2年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名		運動学Ⅱ		担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎久保 明裕				
実務経験		○	理学療法士(病院勤務)として臨床					
科目のねらい		運動学Ⅰで学んだ生体力学(バイオメカニクス)と、四肢・体幹の運動メカニズムの知識を基に、姿勢制御機構、呼吸運動、歩行、運動制御と運動学習について学んでいく。						
到達目標		①運動学的、運動力学的事実を理解し、説明が出来る。 ②静的姿勢と動的姿勢について説明できる。 ③姿勢制御について理解できる ④各関節の種類とその構成要素について説明できる。 ⑤四肢の関節運動のメカニズムについて説明できる。 ⑥体幹の関節運動のメカニズムについて説明できる。 ⑦運動制御と運動学習について説明できる。						
回数	講義計画					予/復時間		内容
第1回	オリエンテーション・生体力学の復習(1)					0.5/0.5		①
第2回	生体力学の復習(2)					0.5/0.5		①
第3回	姿勢と動作(1)					0.5/0.5		②③④⑤⑥
第4回	姿勢と動作(2)					0.5/0.5		②③④⑤⑥
第5回	姿勢と動作(3)					0.5/0.5		②③④⑤⑥
第6回	姿勢と動作(4)					0.5/0.5		②③④⑤⑥
第7回	歩行のメカニズム(1)					0.5/0.5		⑤⑥
第8回	歩行のメカニズム(2)					0.5/0.5		⑤⑥
第9回	歩行のメカニズム(3)					0.5/0.5		⑤⑥
第10回	歩行のメカニズム(4)					0.5/0.5		⑤⑥
第11回	歩行のメカニズム(5)					0.5/0.5		⑤⑥
第12回	歩行のメカニズム(6)					0.5/0.5		⑤⑥
第13回	呼吸運動					0.5/0.5		⑥
第14回	運動制御と運動学習(1)					0.5/0.5		⑦
第15回	運動制御と運動学習(2)					0.5/0.5		⑦
教科書		『基礎運動学』医歯薬出版						
参考文献		『標準理学療法学・作業療法学 運動学』医学書院						
授業方法		PCでのスライドとテキストを用いた講義						
関連科目		運動学Ⅰ、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ						
成績評価基準と方法		定期試験、授業態度						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			1年次に学んだ関連科目の復習を充分行い、授業で分からなかった内容はそのままにせず、必ず理解できるよう努めて復習も欠かさない。					

開講年次	2年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	病理学		担当教員【◎は科目責任者】				知
			◎田村 泰久				
実務経験	○	医療系企業勤務(薬剤師)					
科目のねらい	病理学は、正常状態(生理状態)における各組織・臓器の構造や機能をもとに、病態時での各組織・臓器での構造や機能変化および病態からどのように回復するのかを学び、疾患の病因・病態・治療・予後について理解することを目的とする学問である。						
到達目標	①人体の構造と機能について説明できる。 ②主要な疾病の病因、病態、治療、予後について説明できる。 ③疾病がもたらす機能障害について説明できる。 ④細胞損傷と組織損傷について説明できる。 ⑤壊死とアポトーシスについて説明できる。 ⑥傷害組織の修復過程ならびに再生過程について説明できる。 ⑦炎症の定義・意義について説明できる。 ⑧炎症反応のメカニズムについて説明できる。 ⑨血行障害(虚血、充血、うっ血、出血)の違いとそれぞれの病因・病態について説明できる。 ⑩血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態について説明できる。 ⑪糖代謝異常の病因・病態について説明できる。 ⑫腫瘍の病因について説明できる。 ⑬腫瘍の分類、グレード、ステージなどについて説明できる。 ⑭腫瘍の浸潤・転移・自立性増殖について説明できる。 ⑮悪質液について説明できる。 ⑯廃用症候群について説明できる。 ⑰廃用症候群の分類について説明できる。 ⑱代表的な廃用症候群(褥瘡、関節拘縮、筋萎縮)の病態について説明できる。 ⑲老年症候群の分類について説明できる。 ⑳代表的な老年症候群(認知症、フレイル、サルコペニアなど)の病態について説明できる。 ㉑病因論(内因・外因を含む)について説明できる ㉒病理学的変化(血行障害、進行性・退行性病変、炎症・感染・免疫・アレルギー、腫瘍・新生物、奇形・遺伝を含む)について説明できる ㉓廃用症候群について説明できる ㉔生体反応(ホメオスターシス、ストレス)について説明できる						
回数	講義計画					予/復時間	内容
第1回	病理学とは何か?					0.5/0.5	①②④
第2回	細胞の構造と機能					0.5/0.5	①②
第3回	細胞傷害と細胞増殖					0.5/0.5	③④⑤
第4回	組織、細胞の修復と再生					0.5/0.5	④⑥
第5回	循環障害					0.5/0.5	⑨⑩
第6回	炎症					0.5/0.5	⑦⑧
第7回	免疫機構の異常					0.5/0.5	㉑㉒
第8回	老化					0.5/0.5	⑯～⑳④
第9回	腫瘍1					0.5/0.5	⑫⑬
第10回	腫瘍2					0.5/0.5	⑭⑮
第11回	感染症1					0.5/0.5	㉑㉒
第12回	感染症2					0.5/0.5	㉑㉒
第13回	遺伝と先天異常					0.5/0.5	㉑㉒
第14回	代謝異常					0.5/0.5	⑪⑰
第15回	まとめ					0.5/0.5	①～④
教科書	笹野公伸/他『シンプル病理学』南江堂						
参考文献	指定なし(適宜指示)						
授業方法	教科書および配布資料にそって解説する。						
関連科目	各種疾患学						
成績評価基準と方法		定期テスト(100%)					
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		人体に発生しうるさまざまな異常を病理学の立場から概念的にとらえることに主眼を置く。したがって、各疾患を臓器別に捉える各論よりも、病理学の総論を中心に講義を進める。必要に応じて各論も参照する。					

開講年次	2年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	臨床心理学		担当教員【◎は科目責任者】				知
			◎安田 傑				
実務経験							
科目のねらい	「臨床心理学」では、前半はクライアントの心の特性・状態を測定・分析する「臨床心理検査法」を扱います。後半は、測定結果に基づき悩みを解決するサポートを行う「心理療法・カウンセリング」を扱います。 臨床心理検査法も心理療法・カウンセリングも、どちらも様々な理論や手法が存在するために、それぞれの特徴を理解し、自らの適性やクライアントの状態に応じた使い分けが必要となります。そのために必要な知識や技術を、この授業では学んでいきます。						
到達目標	①臨床心理検査法について説明できる ②心理療法およびカウンセリングについて説明できる ③活動(行動)による精神・心理機能の変化について説明できる。						
回数	講義計画					予/復時間	内容
第1回	臨床心理検査法の概論					0.5/0.5	①
第2回	神経心理学的検査・作業検査法 (内田クリペリンテスト・ベントン視覚記憶検査・MMSEの実施)					0.5/0.5	①
第3回	質問紙法1(YG性格検査とMMPIの実施)					0.5/0.5	①
第4回	質問紙法2(CMI、GHQの実施、その他の質問紙法の説明)					0.5/0.5	①
第5回	投映法(SCTの実施、その他の投映法の説明)					0.5/0.5	①
第6回	知能検査(WAISのビデオ上映、その他の知能検査の説明)					0.5/0.5	①
第7回	発達検査(発達障害の説明とビデオ上映・発達検査の説明)					0.5/0.5	①
第8回	心理療法の基盤的理論の復習					0.5/0.5	②③
第9回	行動療法1					0.5/0.5	②③
第10回	行動療法2、臨床動作法					0.5/0.5	②③
第11回	認知療法、論理療法、認知行動療法					0.5/0.5	②③
第12回	人間性心理学1(来談者中心療法、エンカウンターグループ)					0.5/0.5	②
第13回	人間性心理学2(ゲシュタルト療法、交流分析)					0.5/0.5	②
第14回	その他の心理療法					0.5/0.5	②③
第15回	まとめ					0.5/0.5	①②③
教科書	指定なし(適宜レジュメを配布)						
参考文献	石田彰/他編著『臨床心理学用語辞典』オーム社						
授業方法	スライドを中心とした講義を行う。また、必要に応じて動画上映やレジュメ配布を行う。						
関連科目	精神医学						
成績評価基準と方法		定期テスト(100%)					
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			臨床心理学の中でも、心理検査法は体験して覚える事が早道です。				

開講年次		2年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名		内科学Ⅰ		担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎伊藤 泰司				
実務経験		○	病院勤務(内科医)					
科目のねらい		一つのテーマに対して3～5回をかけて授業していきます。そのうち、特に重要と思われる疾患に関しては時間をかけて講義していきます。						
到達目標		①神経疾患をのぞく一般内科学全体にわたって、個々の疾患に対する知識をある程度把握してもらうことを目標とします。 ②一般的な呼吸器疾患について説明できる ③一般的な呼吸器疾患の疫学、予後について説明できる ④一般的な呼吸器疾患の病因、症候について説明できる ⑤一般的な呼吸器疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑥一般的な循環器疾患について説明できる ⑦一般的な循環器疾患の疫学、予後について説明できる ⑧一般的な循環器疾患の病因、症候について説明できる ⑨一般的な循環器疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑩一般的な消化器疾患について説明できる ⑪一般的な消化器疾患の疫学、予後について説明できる ⑫一般的な消化器疾患の病因、症候について説明できる ⑬一般的な消化器疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑭一般的な肝・胆・膵疾患について説明できる ⑮一般的な肝・胆・膵疾患の疫学、予後について説明できる ⑯一般的な肝・胆・膵疾患の病因、症候について説明できる ⑰一般的な肝・胆・膵疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	呼吸器疾患①						0.5/0.5	
第2回	呼吸器疾患②						0.5/0.5	
第3回	呼吸器疾患③						0.5/0.5	
第4回	呼吸器疾患④						0.5/0.5	
第5回	循環器疾患①						0.5/0.5	
第6回	循環器疾患②						0.5/0.5	
第7回	循環器疾患③						0.5/0.5	
第8回	循環器疾患④						0.5/0.5	
第9回	血液・造血器疾患①						0.5/0.5	
第10回	血液・造血器疾患②						0.5/0.5	
第11回	血液・造血器疾患③						0.5/0.5	
第12回	膠原病・アレルギー疾患・自己免疫疾患①						0.5/0.5	
第13回	膠原病・アレルギー疾患・自己免疫疾患②						0.5/0.5	
第14回	膠原病・アレルギー疾患・自己免疫疾患③						0.5/0.5	
第15回	膠原病・アレルギー疾患・自己免疫疾患④						0.5/0.5	
教科書	指定なし(適宜配布)							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	講義							
関連科目	各種疾患学							
成績評価基準と方法		定期試験、出席率						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)								

開講年次		2年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	内科学Ⅱ			担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎伊藤 泰司				
実務経験		○	病院勤務(内科医)					
科目のねらい		一つのテーマに対して3～5回をかけて授業していきます。そのうち、特に重要と思われる疾患に関しては時間をかけて講義していきます。						
到達目標		①神経疾患をのぞく一般内科学全体にわたって、個々の疾患に対する知識をある程度把握してもらうことを目標とします。 ②一般的な血液疾患・自己免疫疾患について説明できる ③一般的な血液疾患・自己免疫疾患の疫学、予後について説明できる ④一般的な血液疾患・自己免疫疾患の病因、症候について説明できる ⑤一般的な血液疾患・自己免疫疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑥一般的な内分泌・代謝疾患について説明できる ⑦一般的な内分泌・代謝疾患の疫学、予後について説明できる ⑧一般的な内分泌・代謝疾患の病因、症候について説明できる ⑨一般的な内分泌・代謝疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑩一般的な腎・泌尿器疾患について説明できる ⑪一般的な腎・泌尿器疾患の疫学、予後について説明できる ⑫一般的な腎・泌尿器疾患の病因、症候について説明できる ⑬一般的な腎・泌尿器疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑭感染症の分類について説明できる。 ⑮感染経路について説明できる。 ⑯感染予防について説明できる。						
回数	講義計画					予/復時間		内容
第1回	感染症①					0.5/0.5		
第2回	感染症②					0.5/0.5		
第3回	消化器疾患①					0.5/0.5		
第4回	消化器疾患②					0.5/0.5		
第5回	消化器疾患③					0.5/0.5		
第6回	消化器疾患④					0.5/0.5		
第7回	腎・尿路疾患①					0.5/0.5		
第8回	腎・尿路疾患②					0.5/0.5		
第9回	腎・尿路疾患③					0.5/0.5		
第10回	内分泌・代謝疾患①					0.5/0.5		
第11回	内分泌・代謝疾患②					0.5/0.5		
第12回	内分泌・代謝疾患③					0.5/0.5		
第13回	内分泌・代謝疾患④					0.5/0.5		
第14回	内分泌・代謝疾患⑤					0.5/0.5		
第15回	内分泌・代謝疾患⑥					0.5/0.5		
教科書	指定なし(適宜配布)							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	講義							
関連科目	各種疾患学							
成績評価基準と方法		定期試験、出席率						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)								

開講年次		2年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	整形外科学Ⅰ			担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎津田 晃佑				
実務経験		○	病院勤務(整形外科医)					
科目のねらい		理学療法に必要な骨関節、神経疾患などの整形外科的知識を学習する。						
到達目標		①骨関節障害の一般的疾患の疫学・予後について説明できる。 ②骨関節障害の一般的疾患の病因・症候について説明できる。 ③骨関節障害の一般的疾患の検査・診断・治療について説明できる。 ④骨関節障害の一般的疾患のリハビリテーション医療について説明できる						
回数	講義計画				予/復時間		内容	
第1回	骨関節の構造と機能				0.5/0.5		破骨細胞と1型/2型コラーゲン	
第2回	四肢の診察法				0.5/0.5		間欠跛行を呈する疾患	
第3回	脊椎の診察法				0.5/0.5		SLRテスト	
第4回	変形性関節症				0.5/0.5		足底板と人工関節置換術	
第5回	関節リウマチ				0.5/0.5		環軸関節亜脱臼	
第6回	感染性骨関節疾患				0.5/0.5		黄色ブドウ球菌	
第7回	末梢神経障害(1)				0.5/0.5		胸郭出口症候群と徒手検査法	
第8回	末梢神経障害(2)				0.5/0.5		腓骨神経麻痺	
第9回	骨粗鬆症				0.5/0.5		脆弱性骨折の種類	
第10回	代謝性骨疾患				0.5/0.5		偽性副甲状腺機能低下症	
第11回	良性骨腫瘍				0.5/0.5		各種画像検査法	
第12回	悪性骨腫瘍				0.5/0.5		骨肉腫	
第13回	転移性骨腫瘍・軟部腫瘍				0.5/0.5		病的骨折	
第14回	骨腫瘍類似疾患・骨系統疾患				0.5/0.5		骨形成不全症	
第15回	骨壊死・骨端症				0.5/0.5		特発性大腿骨頭壊死症	
教科書		指定なし(適宜配布)						
参考文献								
授業方法		講義						
関連科目		解剖学Ⅰ、運動学Ⅰ・Ⅱ、運動器系理学療法治療学・実習						
成績評価基準と方法			筆記試験(100%)					
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			学力・記憶力は不問ですが、180分の講義に耐える気力は望みます。					

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

開講年次	2年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	整形外科Ⅱ			担当教員【◎は科目責任者】			知
				◎津田 晃佑			
実務経験	○	病院勤務(整形外科医)					
科目のねらい	理学療法に必要な骨関節、神経疾患などの整形外科的知識を学習する。						
到達目標	①骨関節障害の一般的疾患の疫学・予後について説明できる。 ②骨関節障害の一般的疾患の病因・症候について説明できる。 ③骨関節障害の一般的疾患の検査・診断・治療について説明できる。 ④骨関節障害の一般的疾患のリハビリテーション医療について説明できる						
回数	講義計画				予/復時間	内容	
第1回	外傷のプライマリケア・骨折総論				0.5/0.5	JCS、圧挫症候群	
第2回	上肢の骨折と脱臼				0.5/0.5	Volkmann拘縮	
第3回	骨盤・下肢の骨折				0.5/0.5	骨盤輪骨折	
第4回	頸椎・胸椎疾患				0.5/0.5	頸椎椎間板ヘルニア	
第5回	腰椎疾患				0.5/0.5	腰部脊柱管狭窄症	
第6回	脊髄腫瘍・脊椎の炎症と変形				0.5/0.5	神経鞘腫	
第7回	脊椎の外傷・脊髄損傷				0.5/0.5	脊髄ショック	
第8回	小児股関節疾患				0.5/0.5	ペルテス病	
第9回	膝関節疾患				0.5/0.5	ACL損傷	
第10回	足の疾患				0.5/0.5	外反母趾	
第11回	肩・肘関節疾患				0.5/0.5	野球肘	
第12回	手の疾患				0.5/0.5	ドケルバン病	
第13回	軟部疾患・その他の特殊な疾患				0.5/0.5	ガングリオン	
第14回	熱傷・褥瘡				0.5/0.5	1,2,3度熱傷	
第15回	切断				0.5/0.5	幻肢痛	
教科書	指定なし(適宜配布)						
参考文献							
授業方法	講義						
関連科目	解剖学Ⅰ、運動学Ⅰ・Ⅱ、運動器系理学療法治療学・実習						
成績評価基準と方法	筆記試験(100%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			予習・復習は不要ですが、180分の講義に耐える前日の睡眠は必要です。				

開講年次		2年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	神経内科学Ⅰ			担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎榎木 英介				
実務経験								
科目のねらい		理学療法士にとって必要な神経内科学について学習する。総論、各論の区別をなくし、理学療法に役に立つ実践的知識の習得を目指す。						
到達目標		①下記の疾患について理解し、国家試験レベルの問題を解答できるレベルまで高める。 ②脳血管疾患の疫学、予後について説明できる。 ③脳血管疾患の病因、症候について説明できる ④脳血管疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑤中枢神経の障害を引き起こす一般疾患について説明できる ⑥認知症の疫学、予後について説明できる。 ⑦認知症の病因、症候について説明できる ⑧認知症の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑨神経変性疾患の疫学、予後について説明できる。 ⑩神経変性疾患の病因、症候について説明できる ⑪神経変性疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑫脱髄疾患の疫学、予後について説明できる。 ⑬脱髄疾患の病因、症候について説明できる ⑭脱髄疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑮末梢神経疾患の疫学、予後について説明できる。 ⑯末梢神経疾患の病因、症候について説明できる ⑰末梢神経疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	臨床診断の基礎						0.5/0.5	④⑧⑪⑭⑰
第2回	臨床検査						0.5/0.5	④⑧⑪⑭⑰
第3回	脳血管障害①						0.5/0.5	②③④
第4回	脳血管障害②						0.5/0.5	②③④
第5回	高次脳機能障害(脳血管障害, 頭部外傷, 脳腫瘍)①						0.5/0.5	⑤
第6回	高次脳機能障害(脳血管障害, 頭部外傷, 脳腫瘍)②						0.5/0.5	⑤
第7回	認知症①						0.5/0.5	⑥⑦⑧
第8回	認知症②						0.5/0.5	⑥⑦⑧
第9回	認知症③						0.5/0.5	⑥⑦⑧
第10回	変性疾患①						0.5/0.5	⑨⑩⑪
第11回	変性疾患②						0.5/0.5	⑨⑩⑪
第12回	脱髄疾患①						0.5/0.5	⑫⑬⑭
第13回	末梢神経疾患①						0.5/0.5	⑮⑯⑰
第14回	末梢神経疾患②						0.5/0.5	⑮⑯⑰
第15回	まとめ						0.5/0.5	①
教科書	今井富裕/著『はじめての講義 リハビリテーションのための神経内科学の学び方』南江堂							
参考文献	随時資料配布。							
授業方法	講義を行う。テキストを中心に解説する。							
関連科目								
成績評価基準と方法		筆記試験(100%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		授業は真剣に取り込むこと。復習が特に大切である。テキスト中心なので、十分読み込んでほしい。						

開講年次		2年前期		分野	専門 基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名		神経内科学Ⅱ		担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎榎木 英介				
実務経験								
科目のねらい		理学療法士にとって必要な神経内科学について学習する。総論、各論の区別をなくし、理学療法に役に立つ実践的知識の習得を目指す。						
到達目標		①下記の疾患について理解し、国家試験レベルの問題を解答できるレベルまで高める。 ②神経・筋疾患の疫学、予後について説明できる。 ③神経・筋疾患の病因、症候について説明できる ④神経・筋疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑤感染・炎症性疾患の疫学、予後について説明できる。 ⑥感染・炎症性疾患の病因、症候について説明できる ⑦感染・炎症性疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑧外傷(外傷性脳損傷(TBI)、脊髄損傷)の疫学、予後について説明できる。 ⑨外傷(外傷性脳損傷(TBI)、脊髄損傷)の病因、症候について説明できる ⑩外傷(外傷性脳損傷(TBI)、脊髄損傷)の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる						
回数	講義計画					予/復時間		内容
第1回	筋疾患①					0.5/0.5		②③④
第2回	筋疾患②					0.5/0.5		②③④
第3回	神経感染症①					0.5/0.5		⑤⑥⑦
第4回	神経感染症②					0.5/0.5		⑤⑥⑦
第5回	神経感染症③					0.5/0.5		⑤⑥⑦
第6回	機能性疾患					0.5/0.5		⑪
第7回	代謝・中毒性疾患					0.5/0.5		⑪
第8回	脊椎・脊髄疾患①					0.5/0.5		⑧⑨⑩
第9回	脊椎・脊髄疾患②					0.5/0.5		⑧⑨⑩
第10回	内科疾患に伴う神経疾患①					0.5/0.5		⑪
第11回	内科疾患に伴う神経疾患②					0.5/0.5		⑪
第12回	内科疾患に伴う神経疾患③					0.5/0.5		⑪
第13回	小児神経疾患①					0.5/0.5		⑪
第14回	小児神経疾患②					0.5/0.5		⑪
第15回	まとめ					0.5/0.5		①
教科書		今井富裕/著『はじめての講義 リハビリテーションのための神経内科学の学び方』南江堂						
参考文献		随時資料配布。						
授業方法		講義を行う。テキストを中心に解説する。						
関連科目								
成績評価基準と方法		筆記試験(100%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			授業は真剣に取り込むこと。復習が特に大切である。テキスト中心なので、十分読み込んでほしい。					

開講年次		2年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	脳神経外科学			担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎山本 暁大				
実務経験		○	医師(脳神経外科医)として臨床					
科目のねらい		脳神経外科学とは脳及び脊髄という中枢神経から末梢神経に及ぶ神経系疾患について外科的観点から解剖・病態生理・症候学を理解し診断及び治療を行う学問の体系である。本講義では、脳神経外科学の基礎となる外科解剖、症候学を理解し、各疾患に対する現時点での標準的な概念理解と診断・治療の過程を解説する。それにより脳・脊髄疾患に対する理解を深め、将来自らが関わるであろう患者の病態理解とリハビリテーションの意義と可能性について学んでいただきたい。						
到達目標		①ヒトの健康・医療における脳神経外科学の意義について理解する。 ②中枢神経系の解剖生理と症候学の関連を理解し説明できる。 ③各脳神経外科疾患の画像診断、外科的・内科的治療方法、臨床経過を理解する。 ④脳神経外科疾患と関連する現代の社会的問題を把握し、関連付けて理解を深める。 ⑤脳血管疾患の疫学、予後について説明できる ⑥脳血管疾患の病因、症候について説明できる ⑦脳血管疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑧外傷(外傷性脳損傷(TBI)、脊髄損傷)の疫学、予後について説明できる ⑨外傷(外傷性脳損傷(TBI)、脊髄損傷)の病因、症候について説明できる ⑩外傷(外傷性脳損傷(TBI)、脊髄損傷)の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑪脳腫瘍の疫学、予後について説明できる ⑫脳腫瘍の病因、症候について説明できる ⑬脳腫瘍の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑭脊髄・脊椎疾患の疫学、症候、検査、診察、治療について説明できる						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	脳神経外科概論						0.5/0.5	①②
第2回	精神症状と認知症						0.5/0.5	②④
第3回	頭痛						0.5/0.5	④
第4回	画像診断と読影						0.5/0.5	③
第5回	脊髄・脊椎疾患①						0.5/0.5	①④
第6回	脊髄・脊椎疾患②						0.5/0.5	①④
第7回	頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア						0.5/0.5	②
第8回	意識障害、てんかんとけいれん						0.5/0.5	②
第9回	脳血管障害①						0.5/0.5	⑤⑥
第10回	脳血管障害②						0.5/0.5	⑦
第11回	脳腫瘍①						0.5/0.5	⑪⑫
第12回	脳腫瘍②						0.5/0.5	⑬
第13回	頭部外傷①						0.5/0.5	⑧⑨
第14回	頭部外傷②						0.5/0.5	⑩
第15回	まとめ						0.5/0.5	①④
教科書	「病気がみえるVol.7 脳・神経」「病気がみえるVol.11 運動器・整形外科」MEDIC MEDIA							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	スライド授業と講義(座学)							
関連科目	解剖学Ⅲ、中枢神経系理学療法治療学・実習							
成績評価基準と方法		筆記試験(100%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		解剖用語、専門用語に慣れ、解剖・病態生理・症候学を理解する。						

開講年次		2年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名		精神医学		担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎巴 隆弘				
実務経験		○	病院勤務(作業療法士)として臨床					
科目のねらい		「こころ」や思考はそのヒトの気質・性格・身体のおかれた状況などによりきわめて個性的にはたらく。そうした「こころ」や思考を体系的に捉えようとした精神医学的な考え方を習得し、そのうえで、医療現場における患者の精神・神経・身体状況をより深く理解できることを目標とする。						
到達目標		①気分障害・不安障害や統合失調症をはじめとするこころの病気と脳機能のはたらきを照らし合わせて理解できる。 ②脳の器質的疾患について理解できる。 ③各疾患の治療薬に関して作用メカニズムを理解できる。 ④精神作用物質やその障害について理解できる。 ⑤ヒトの精神・神経・身体の連関を理解できる。 ⑥一般的な精神疾患の疫学、予後について説明できる。 ⑦一般的な精神疾患の病因、症候について説明できる ⑧一般的な精神疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑨一般的な精神疾患のリハビリテーション医療について説明できる						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	精神医学とは						0.5/0.5	⑤
第2回	脳とこころ						0.5/0.5	①⑤
第3回	気分障害						0.5/0.5	①③⑥⑦⑧⑨
第4回	うつ病						0.5/0.5	①③⑥⑦⑧⑨
第5回	不安障害①						0.5/0.5	①③⑥⑦⑧⑨
第6回	不安障害②						0.5/0.5	①③⑥⑦⑧⑨
第7回	統合失調症						0.5/0.5	①③⑥⑦⑧⑨
第8回	人格・行動障害						0.5/0.5	①③⑥⑦⑧⑨
第9回	児童・青年期および高齢者の精神医学						0.5/0.5	①③⑥⑦⑧⑨
第10回	精神作用物質使用による障害						0.5/0.5	③④
第11回	脳器質的疾患①						0.5/0.5	②
第12回	脳器質的疾患②						0.5/0.5	②
第13回	睡眠およびその障害・てんかん						0.5/0.5	③⑥⑦⑧⑨
第14回	心理療法・薬物療法						0.5/0.5	③
第15回	まとめ						0.5/0.5	
教科書	越野好文/他著『好きになる精神医学』講談社 太田保之/他著『学生のための精神医学』医歯薬出版							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	テキストやプリントを用いながら、黒板を使用して解説する。 適宜、プロジェクターによる映写も併用する。							
関連科目								
成績評価基準と方法		筆記試験(100%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				授業での学習内容を復習すること。				

開講年次		2年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	救急救命医学			担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎田村 優貴、材木 力斗				
実務経験								
科目のねらい		医師、看護師、理学療法士それぞれの立場から、救急救命に対する知識、技術、リスクを学習する。						
到達目標		①医療従事者として必要な救急救命医学について理解する。 ②理学療法士が担う職域が広がる中、救急救命医学に関する知識を持ち、いかなる状況でも対応できる能力を身に着ける。 ③救急医療体制について説明できる ④症候群(意識低下、けいれん、失神、めまい、呼吸困難、胸痛、動悸、急性肺障害、急性呼吸促進症候群、嘔気・嘔吐、腹痛、頭痛、咽頭痛、腰背部痛、全身性炎症反応症候群)について説明できる ⑤心肺蘇生・応急処置の方法について説明できる ⑥理学療法場面で起こりえる医療事故(インシデントを含む)やリスクを列挙できる ⑦理学療法関連機器の安全点検・整備について説明できる ⑧一次救命処置(BLS)について説明できる ⑨二次救命処置(BLS)について説明できる						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	救急医療体制						0.5/0.5	①
第2回	症候群(意識低下、けいれん、失神、めまい、呼吸困難、胸痛、動悸、急性肺障害、急性呼吸促進症候群、嘔気・嘔吐、腹痛、頭痛、咽頭痛、腰背部痛、全身性炎症反応症候群)						0.5/0.5	④
第3回							0.5/0.5	
第4回							0.5/0.5	
第5回							0.5/0.5	
第6回	心肺蘇生・応急処置の方法						0.5/0.5	⑤
第7回	一次救命処置						0.5/0.5	①⑧
第8回							0.5/0.5	
第9回	二次救命処置						0.5/0.5	①⑨
第10回							0.5/0.5	
第11回	理学療法場面で起こりえる医療事故(インシデントを含む)やリスク						0.5/0.5	②⑤⑦
第12回							0.5/0.5	②⑤
第13回	理学療法関連機器の安全点検・整備						0.5/0.5	①②⑤⑥
第14回	超急性期リハビリテーション						0.5/0.5	②
第15回	ICUにおけるリハビリテーション						0.5/0.5	②
教科書	指定なし(適宜配布)							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	講義・実技							
関連科目								
成績評価基準と方法		出席率、授業態度						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		急性期のリハビリテーションについて興味を持っていただけると幸いです。						

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

開講年次		2年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名		小児科学		担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎篠原 康夫				
実務経験		○	医師(開業医)として臨床					
科目のねらい		小児の成長・発達を学び、疾患の理解に努めましょう。						
到達目標		①小児の障害を引き起こす一般疾患について説明できる ②小児の障害を引き起こす一般疾患について説明できる ③小児の障害を引き起こす一般疾患の疫学、予後について説明できる ④小児の障害を引き起こす一般疾患の病因、症候について説明できる ⑤小児の障害を引き起こす一般疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる						
回数	講義計画					予/復時間		内容
第1回	概論					0.5/0.5		①
第2回	診断と治療の概論					0.5/0.5		②
第3回	新生児・未熟児疾患					0.5/0.5		②
第4回	先天異常と遺伝病					0.5/0.5		②
第5回	神経・筋・骨系疾患					0.5/0.5		②
第6回	循環器疾患					0.5/0.5		②
第7回	呼吸器疾患					0.5/0.5		②
第8回	感染症					0.5/0.5		②
第9回	消化器疾患					0.5/0.5		②
第10回	内分泌・代謝疾患					0.5/0.5		②
第11回	血液疾患					0.5/0.5		②
第12回	免疫アレルギー疾患・膠原病					0.5/0.5		②
第13回	腎・泌尿器系、生殖器疾患					0.5/0.5		②
第14回	腫瘍性疾患					0.5/0.5		②
第15回	心身医学的疾患など					0.5/0.5		③
教科書	富田豊/編『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学』医学書院							
参考文献	内山聖/監『標準小児科学』医学書院							
授業方法	講義:教科書を中心に講義します。							
関連科目								
成績評価基準と方法		期末試験:選択式(五者択一)で出題します。100点満点。						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		日々の学習が大切です。復習はきちんとして下さい。						

開講年次		2年前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	理学療法研究法Ⅰ			担当教員【◎は科目責任者】			知・技・表態・思・判	
				◎井口祥平、木下拓真、清水浩之、岡林豊、市田修一、久保明裕、相星裕生、藤井隆太、松村明保、大井直樹				
実務経験								
科目のねらい		理学療法士が対象とする様々な現象を理解するためには、その現象一つ一つに論理的な説明ができなければならない。論理的な説明があって初めて、理学療法実践が可能となる。言い換えると論理的な説明ができなければ理学療法提供ができないということになる。 これまでに学習した基礎医学の知識をもとに理学療法の対象となる様々な現象を自らの力で考え、論理的な説明ができることが本科目の目的である。						
到達目標		①理学療法教育の3領域について理解できる。 ②社会人基礎力について説明でき、自身に備えることができる。 ③一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力を修得する。 ④疑問を持ち、考え抜く力を修得する。 ⑤多様な人々と共に、目標に向けて協力する力を修得する。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	「論理的ってどういうこと?」「社会人基礎力ってなに?」						0.5/0.5	①
第2回	論理的思考の基本(インスタのストーリーはなぜ1日で消えちゃうの?)						0.5/0.5	②③④⑤
第3回	演繹法と帰納法(世の中に「絶対」ってあるの?)						0.5/0.5	
第4回	フェルミ推定とMECE(マクドナルド十三店の年間売り上げていくらだろう?)						0.5/0.5	
第5回	ロジックツリー(今日何して遊ぶ?選択肢を沢山出せる人になりたくない??)						0.5/0.5	
第6回	具体と抽象(「この人深いなっ」って感じる人の頭の中って、どうなってるの?)						0.5/0.5	
第7回	論理的思考のまとめ(あなたは合理的判断を信じる?直感的判断を信じる?)						0.5/0.5	
第8回	社会人基礎力①(仕事ができる人ってどんな人?)						0.5/0.5	
第9回	社会人基礎力②(人の魅力って何なんだろう?)						0.5/0.5	
第10回	社会人基礎力③(魅力のある人を探してみよう!)						0.5/0.5	
第11回	社会人基礎力③(魅力のある人を探してみよう!)						0.5/0.5	
第12回	社会人基礎力④(その人の魅力を人に伝えてみよう!)						0.5/0.5	
第13回	社会人基礎力④(その人の魅力を人に伝えてみよう!)						0.5/0.5	
第14回	社会人基礎力⑤(意見を交換してみよう!)						0.5/0.5	
第15回	まとめ						0.5/0.5	
教科書	指定なし(適宜配布)							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	グループワークを中心として授業を行います。							
関連科目	理学療法研究法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ							
成績評価基準と方法		授業態度(50%)、課題(50%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)								

開講年次		2年後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	理学療法研究法Ⅱ			担当教員【◎は科目責任者】				知・技・表態・ 思・判
				◎井口祥平				
実務経験		○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		プロ野球選手のバットスイング、バレリーナの優雅な身のこなしのみならず、手でドアを開ける、歩いてコンビニへ行くといった日常的なヒトの動作でさえ、実に複雑で巧妙なメカニズムによってもたらされている。理学療法士が動作改善のスペシャリストと言われる所以は、動作の生成メカニズムを理解しているからに他ならない。更に可視化されない動作メカニズムを理解し、肉眼的に動作を見ながら可視化されない様々な情報を処理することに長けている。本科目では筋電図、床反力計、3次元動作解析装置を用いて、ヒトの動作について深く見つめていくこととする。また、理学療法士は異常を呈したさまざまな現象に対して、その要因の仮説を立て検証することで、原因に突き止める。本科目ではその思考についても経験していくことにする。						
到達目標		①筋電図(EMG)の原理を理解することができる。 ②基本的な筋電図測定を実施することができる。 ③基本的な筋電図波形について理解することができる。 ④正常動作時の筋電図波形から関与する筋の整理ができる。 ⑤床反力計の操作を実施することができる。 ⑥3次元動作解析装置から得られる情報について理解することができる。 ⑦3次元動作解析と床反力から関節モーメントなど、運動力学的な解析を実践できる ⑧筋電図、床反力計、3次元動作解析装置から得られる情報を解剖学、生理学、運動学の知識を利用し説明ができる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	筋電図はどんな情報を教えてくれるの？						0.5/0.5	①
第2回							0.5/0.5	
第3回	3次元動作解析装置を使って動作の成り立ちを捉えてみよう。(操作方法編)						0.5/0.5	②
第4回	ヒトの動作に床反力ってどう役立っているの？						0.5/0.5	
第5回	立ち上がりの成立要因を筋電図、床反力、3次元動作解析装置を使って考えてみよう。						0.5/0.5	③
第6回							0.5/0.5	
第7回	歩行の成立要因を筋電図、床反力、3次元動作解析装置を使って考えてみよう。						0.5/0.5	④
第8回							0.5/0.5	
第9回	姿勢・動作を正しく表現してみよう。						0.5/0.5	⑤
第10回	異常姿勢・異常動作を表現してみよう。						0.5/0.5	
第11回							0.5/0.5	⑥
第12回	なぜ異常姿勢・異常動作となったのか、仮説を立ててみよう。						0.5/0.5	
第13回							0.5/0.5	
第14回	検査・測定結果から異常姿勢・異常動作の統合と解釈をしてみよう。						0.5/0.5	
第15回							0.5/0.5	
教科書	指定なし(適宜配布)							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	グループワークを中心として授業を行います。							
関連科目	理学療法研究法Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ							
成績評価基準と方法		授業態度(50%)、課題(50%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)								

開講年次	2年後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	理学療法評価学Ⅲ		担当教員【◎は科目責任者】				知・技
			◎松村明保				
実務経験	○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい	運動器の評価(整形外科的検査)、神経系の評価(表在反射、病的反射、筋緊張検査、片麻痺運動機能検査(ブルンストローム法ステージ)、SIAS、協調性検査、感覚検査)についての学習を実技を含めて行う。						
到達目標	①運動器の評価、神経系評価、片麻痺運動機能検査を行う上でのリスクについて想起し、対応できる。 ②運動器の評価、神経系評価、片麻痺運動機能検査の目的と評価方法について説明できる ③運動器の評価、神経系評価、片麻痺運動機能検査・測定技術を習得し、正確に実施できる。 ④理学療法評価実施目のスクリーニング検査について説明できる ⑤理学療法評価を実施する時期について説明できる ⑥理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる ⑦理学療法実施に関わる情報の整理の仕方が説明できる ⑧理学療法に関わる情報の整理ができる						
回数	講義計画				予/復時間	内容	
第1回	オリエンテーション				0.5/0.5	⑤⑥⑦⑧	
第2回	整形外科的検査①				0.5/0.5	①②③④	
第3回	整形外科的検査②				0.5/0.5	①②③④	
第4回	表在反射・病的反射				0.5/0.5	①②③④	
第5回	感覚検査①				0.5/0.5	①②③④	
第6回	感覚検査②				0.5/0.5	①②③④	
第7回	筋緊張検査①				0.5/0.5	①②③④	
第8回	筋緊張検査②				0.5/0.5	①②③④	
第9回	片麻痺運動機能検査(ブルンストロームステージ法)①				0.5/0.5	①②③④	
第10回	片麻痺運動機能検査(ブルンストロームステージ法)②				0.5/0.5	①②③④	
第11回	協調性検査①				0.5/0.5	①②③④	
第12回	協調性検査②				0.5/0.5	①②③④	
第13回	SIAS①				0.5/0.5	①②③④	
第14回	SIAS②				0.5/0.5	①②③④	
第15回	バランス検査				0.5/0.5	①②③④	
教科書	望月久/他編『理学療法評価学』 医歯薬出版、田崎義昭/他著『ベッドサイドの神経の診かた』南山堂						
参考文献	指定なし(適宜指示)						
授業方法	事前に次のコマで扱う検査の方法等について学習し、当日に確認テストを行う。 確認テストを行った後、実技の実践を行い、方法を確認する。						
関連科目	理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ						
成績評価基準と方法	確認テスト、筆記試験、実技試験にて評価する。						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	正確に修学できるように、可能な限り半袖・半ズボンで出席すること。						

開講年次		2年後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名		理学療法評価学演習			担当教員【◎は科目責任者】			思・判
					◎相星 裕生			
実務経験		○		病院勤務(理学療法士)として臨床				
科目のねらい		疾患情報を通して、症状の予測を行い、その症状判断をするための評価検査をリストアップできるようになることが目標です。また評価をリストアップできるだけでなくその方法なども熟知、実施して頂きます。						
到達目標		①病態理解や画像所見から出現するであろう症状を予測できるようになる。 ②予測できる症状に対して、判断に必要な検査評価を知る、実践できるようになる ③病態理解ができるようになる ④病態を表出するための検査、評価項目を知る 列挙できるようになる ⑤理学療法評価の目的と評価方法について説明できる ⑥理学療法評価実施目のスクリーニング検査について説明できる ⑦理学療法評価を実施する時期について説明できる ⑧理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる ⑨理学療法実施に関わる情報の整理の仕方が説明できる ⑩理学療法に関わる情報の整理ができる ⑪理学療法の目標設定の仕方が説明できる ⑫理学療法プログラムの立案の仕方が説明できる ⑬理学療法の実施記録について説明できる ⑭病態理解や画像所見から出現するであろう症状を予測できる。 ⑮予測できる症状に対して、判断に必要な検査評価を知る、実践できる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	総論						0.5/0.5	
第2回	運動器疾患の病態理解とボトムアップ①						0.5/0.5	①－⑥
第3回	運動器疾患の病態理解とボトムアップ①						0.5/0.5	①－⑥
第4回	運動器疾患の病態理解とボトムアップ①						0.5/0.5	①－⑥
第5回	運動器疾患の病態理解とボトムアップ①						0.5/0.5	①－⑥
第6回	運動器疾患の病態理解とボトムアップ①						0.5/0.5	①－⑥
第7回	運動器疾患の病態理解とボトムアップ①						0.5/0.5	①－⑥
第8回	運動器疾患の病態理解とボトムアップ 小テスト						0.5/0.5	
第9回	脳血管疾患の病態理解とボトムアップ②						0.5/0.5	①－⑥
第10回	脳血管疾患の病態理解とボトムアップ②						0.5/0.5	①－⑥
第11回	脳血管疾患の病態理解とボトムアップ②						0.5/0.5	①－⑥
第12回	脳血管疾患の病態理解とボトムアップ②						0.5/0.5	①－⑥
第13回	脳血管疾患の病態理解とボトムアップ②						0.5/0.5	①－⑥
第14回	脳血管疾患の病態理解とボトムアップ②						0.5/0.5	①－⑥
第15回	脳血管疾患の病態理解とボトムアップ 小テスト						0.5/0.5	
教科書	指定なし(適宜配布)							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	講義とグループワーク							
関連科目	理学療法評価学Ⅱ・Ⅲ							
成績評価基準と方法		出席率、授業態度、課題提出、各小テスト。期末テストはありません。小テスト2回で判断します。						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		グループワーク、個人ワーク共に多い授業です。ボトムアップ能力の向上になりますので頑張ってください！						

開講年次	2年後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	理学療法評価学実習		担当教員【◎は科目責任者】			思・判
			◎藤井隆太			
実務経験	○	病院勤務(理学療法士)として臨床				
科目のねらい	姿勢・動作分析は、理学療法士にとって重要であるものの経験や熟練が必要な面も多い。本講義では、臨床現場でよく出会う疾患の基礎的な姿勢・動作分析の理論と技術を学ぶ。					
到達目標	①基本動作を観察して、言語化できる ②動作分析を行うために必要な基本動作のメカニズムを理解できる ③基本動作のメカニズムについて説明できる。 ④姿勢・動作分析の意味を理解する。 ⑤解剖学・生理学・運動学を基に姿勢・動作観察・分析手法を理解できる。 ⑥姿勢・動作分析の結果から機能障害の「仮説」がたてられるようになる。 ⑦理学療法評価の目的と評価方法について説明できる ⑧理学療法評価実施目のスクリーニング検査について説明できる ⑨理学療法実施に関わる情報の整理の仕方が説明できる ⑩理学療法に関わる情報の整理ができる					
回数	講義計画				予/復時間	内容
第1回	リエンテーション:姿勢や動作を見て分析することは理学療法にどのように繋がるか解説します。				0.5/0.5	④
第2回	姿勢のイラスト化:標準的な姿勢の理解を深めます。姿勢を観察するだけでなく、分析する意味について学び見たものをイラスト化することで表出する方法を学びます。				0.5/0.5	④⑤⑥
第3回	姿勢の言語化:姿勢をイラスト化したものを言語化して説明する方法を解説します。				0.5/0.5	④⑤⑥
第4回	姿勢と関連図①:姿勢を言語化していく中でその関連性について組み立てる方法を学びます。姿勢から予測される機能障害の仮説を考えます。				0.5/0.5	④⑤⑥
第5回	姿勢と関連図②:機能障害の仮説から検査測定項目を抽出します。				0.5/0.5	④⑤⑥
第6回	動作分析の基礎①:動作分析の目的について解説しながら、着眼点とその他の注意事項について学びます。				0.5/0.5	②
第7回	動作分析の基礎②:基本動作や姿勢の中でバイオメカニクスの観点からどのように捉えれば良いか解説します。				0.5/0.5	②
第8回	歩行動作分析①:歩行動作で遊んでみましょう。				0.5/0.5	④
第9回	歩行動作分析②:歩行動作の初期設置、荷重応答期、立脚中期を分析してみましょう。				0.5/0.5	①③⑥
第10回	歩行動作分析③:歩行動作の立脚後期・前遊脚期・遊脚期を分析してみましょう。				0.5/0.5	①③⑥
第11回	グループワーク①:関連図作成の準備				0.5/0.5	⑦⑧⑨⑩
第12回	グループワーク②:関連図作成の準備				0.5/0.5	⑦⑧⑨⑩
第13回	グループワーク③:関連図作成の準備				0.5/0.5	⑦⑧⑨⑩
第14回	グループ発表会①				0.5/0.5	⑦⑧⑨⑩
第15回	グループ発表会②・まとめ				0.5/0.5	⑦⑧⑨⑩
教科書	指定なし(適宜配布)					
参考文献	山本澄子・他/基礎バイオメカニクス第2版 医歯薬出版株式会社 樋口貴広・建内宏重/著 姿勢と歩行 協調からひも解く					
授業方法	講義とグループワーク					
関連科目	姿勢・動作分析学、理学療法評価学Ⅱ・Ⅲ					
成績評価基準と方法	グループ発表(20%)、終期試験(80%)、出席率と授業態度					
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	トップダウン評価は理学療法士にとって重要かつ経験を要する難しい内容です。別の言い方をすると、理学療法士の最大の強みとも言えます。解剖学、生理学、運動学、評価学、姿勢動作分析学の知識があることを前提に講義を進めますので、これまで科目の復習をしっかりして講義に参加してください。					

開講年次		2年前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名		姿勢・動作分析学		担当教員【◎は科目責任者】				知・技 思・判
				◎久保 明裕				
実務経験		○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		理学療法目的は、基本的動作能力の回復・維持です。 その為、対象者を評価するには必ず基本的動作の観察・分析が含まれます。 この科目では、基本的動作の観察能力を養い、動作の模倣や動作の説明ができるように学習し、動作分析結果から必要な検査測定項目を列挙できるように思考力を養います。						
到達目標		①基本動作を観察して、言語化できる ②動作分析を行うために必要な基本動作のメカニズムを理解できる ③基本動作の発達過程について説明できる。 ④基本動作のメカニズムについて説明できる。 ⑤姿勢異常(臥位、座位、立位)の程度と関連要因を把握する評価が実施できる ⑥運動能力低下、動作能力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる ⑦起居移動動作能力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション・姿勢と動作の観察(1)						0.5/0.5	①②
第2回	姿勢と動作の観察(2)						0.5/0.5	①②
第3回	基本的動作のメカニズムの理解(寝返り動作①)						0.5/0.5	③④
第4回	基本的動作のメカニズムの理解(寝返り動作②)						0.5/0.5	⑤⑥⑦
第5回	基本的動作のメカニズムの理解(起き上がり動作①)						0.5/0.5	③④
第6回	基本的動作のメカニズムの理解(起き上がり動作②)						0.5/0.5	⑤⑥⑦
第7回	基本的動作のメカニズムの理解(座位保持動作)						0.5/0.5	②③⑤
第8回	基本的動作のメカニズムの理解(立ち上がり動作①)						0.5/0.5	③④
第9回	基本的動作のメカニズムの理解(立ち上がり動作②)						0.5/0.5	⑤⑥⑦
第10回	基本的動作のメカニズムの理解(立位保持動作)						0.5/0.5	②③⑤
第11回	基本的動作のメカニズムの理解(移乗動作①)						0.5/0.5	③④
第12回	基本的動作のメカニズムの理解(移乗動作②)						0.5/0.5	⑤⑥⑦
第13回	基本的動作のメカニズムの理解(歩行動作①)						0.5/0.5	③④
第14回	基本的動作のメカニズムの理解(歩行動作②)						0.5/0.5	③④⑤⑥⑦
第15回	基本的動作のメカニズムの理解(歩行動作③)						0.5/0.5	⑤⑥⑦
教科書		石井慎一郎/編著『動作分析 臨床活用講座』MEDICAL VIEW						
参考文献		指定なし(適宜指示)						
授業方法		講義、グループワーク、実技を行う						
関連科目		解剖学Ⅰ、運動学Ⅰ・Ⅱ						
成績評価基準と方法		定期試験・出席態度						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			解剖学・運動学との繋がりが多くなるので、復習を行うように心がけて、わからないところは早めに解決するようにしてください。					

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

開講年次		2年前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	物理療法Ⅰ			担当教員【◎は科目責任者】				知・技
				◎大井 直樹				
実務経験		○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		この授業では、理学療法士の治療方法の一つである「物理療法」について、その特徴と治療方法について学んでいく。						
到達目標		①物理療法の種類を説明できる ②物理療法の適応について説明できる ③物理療法の禁忌について説明できる ④物理療法の実施方法について説明できる ⑤物理療法機器の作用・効果を理解した上で適切に使用できる。						
回数	講義計画					予/復時間		内容
第1回	物理療法総論、痛みの生理学と病理学					0.5/0.5		①⑤
第2回	痛みの生理学と病理学					0.5/0.5		⑤
第3回	温熱療法に必要な物理学と生理学					0.5/0.5		⑤
第4回	温熱療法に必要な物理学と生理学					0.5/0.5		⑤
第5回	ホットパック					0.5/0.5		②③④⑤
第6回	パラフィン浴					0.5/0.5		②③④⑤
第7回	水治療法					0.5/0.5		②③⑤
第8回	水治療法					0.5/0.5		④⑤
第9回	超短波療法					0.5/0.5		②③④⑤
第10回	極超短波療法					0.5/0.5		②③④⑤
第11回	超音波療法					0.5/0.5		②③⑤
第12回	超音波療法					0.5/0.5		④⑤
第13回	寒冷療法					0.5/0.5		②③⑤
第14回	寒冷療法					0.5/0.5		④⑤
第15回	まとめ					0.5/0.5		①②③④⑤
教科書	庄本康治/編『エビデンスから身につける物理療法』羊土社							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	講義と実習							
関連科目	生理学							
成績評価基準と方法		授業態度・成果物(10%)、小テスト(10%)、定期試験(80%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		実習時には、着脱の容易な服装で授業に臨むこと。						

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

開講年次		2年後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	物理療法Ⅱ			担当教員【◎は科目責任者】				知・技
				◎大井 直樹				
実務経験		○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		この授業では、理学療法士の治療方法の一つである「物理療法」について、その特徴と治療方法について学んでいく。						
到達目標		①物理療法の種類を説明できる ②物理療法の適応について説明できる ③物理療法の禁忌について説明できる ④物理療法の実施方法について説明できる ⑤物理療法機器の作用・効果を理解した上で適切に使用できる。						
回数	講義計画					予/復時間		内容
第1回	光線療法総論、レーザー療法					0.5/0.5		②③⑤
第2回	レーザー療法					0.5/0.5		④⑤
第3回	赤外線療法、紫外線療法					0.5/0.5		②③④⑤
第4回	電気をを用いた治療					0.5/0.5		①②③⑤
第5回	TENS					0.5/0.5		②③⑤
第6回						0.5/0.5		④⑤
第7回	NMES					0.5/0.5		②③⑤
第8回						0.5/0.5		④⑤
第9回	その他の電気刺激療法					0.5/0.5		②③④⑤
第10回	圧迫療法					0.5/0.5		②③⑤
第11回	圧迫療法、牽引療法					0.5/0.5		②③④⑤
第12回	牽引療法					0.5/0.5		④⑤
第13回	振動刺激療法					0.5/0.5		②③④⑤
第14回	体外衝撃波療法					0.5/0.5		②③④⑤
第15回	まとめ					0.5/0.5		①②③④⑤
教科書		庄本康治/編『エビデンスから身につける物理療法』羊土社						
参考文献		指定なし(適宜指示)						
授業方法		講義と実習						
関連科目								
成績評価基準と方法			授業態度・成果物(10%)、小テスト(10%)、定期試験(80%)					
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				実習時には、着脱の容易な服装で授業に臨むこと。				

開講年次		2年前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	運動療法Ⅰ			担当教員【◎は科目責任者】				知・技
				◎井口 奈保美				
実務経験		○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		運動療法とは運動を利用した治療の方法であり、理学療法のなかでも中心的な位置を占める。その活用の場はあらゆる疾患・障害といった医療の分野に限らず健康増進・予防に関する分野まで幅広く広がっている。 本科目では、理学療法治療技術の1つである「運動療法」の、基本原理とその方法について学び、基本的な運動療法が実施できるための知識習得を目的とする。						
到達目標		①運動療法の基礎的な原理と方法を学び、基礎的な運動療法が実施できる。 ②関節可動域制限に対する運動療法が実施できる ③筋力低下に対する運動療法が実施できる ④筋緊張異常に対する運動療法が実施できる ⑤持久力低下に対する運動療法が実施できる ⑥感覚異常に対する運動療法が実施できる ⑦姿勢異常(臥位、座位、立位)に対する運動療法が実施できる ⑧運動能力低下・動作能力低下に対する運動療法が実施できる ⑨起居移動動作能力低下に対する運動指導が実施できる ⑩バランス・平行機能低下に対する運動療法が実施できる						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション、運動療法総論						0.5/0.5	
第2回	関節可動域制限、結合組織						0.5/0.5	
第3回	運動の基本						0.5/0.5	
第4回	関節可動域運動、伸張運動						0.5/0.5	
第5回	筋肉について、筋力の概念						0.5/0.5	
第6回	筋力増強運動①						0.5/0.5	
第7回	筋力増強運動②						0.5/0.5	
第8回	筋持久力・全身持久力増強運動①						0.5/0.5	
第9回	筋持久力・全身持久力増強運動②						0.5/0.5	
第10回	全身調整運動						0.5/0.5	
第11回	リラクセーション						0.5/0.5	
第12回	協調性運動						0.5/0.5	
第13回	神経筋再教育・神経生理学的アプローチ①						0.5/0.5	
第14回	神経筋再教育・神経生理学的アプローチ②						0.5/0.5	
第15回	基本動作獲得・改善						0.5/0.5	
教科書	対馬栄輝/編『理学療法テキスト 運動療法学』MEDICAL VIEW							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	講義と実習							
関連科目	解剖学・生理学・運動学・リハビリテーション医学・体表解剖学							
成績評価基準と方法		授業態度(10%)・小テスト(20%)・筆記試験(70%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		実技ができる服装で臨むようにしてください。 関連科目の復習は適宜行っておくようにしてください。(授業内でどの部分をやってほしいかはアナウンス致します)						

開講年次		2年前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	運動療法Ⅱ			担当教員【◎は科目責任者】				知・技
				◎井口 奈保美				
実務経験		○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		運動療法Ⅰで学んだ基本的な運動療法技術をもとに、その原理と方法を各種障害や疾患に繋げ「実施できる能力」として習得することを目的とする。						
到達目標		①運動療法の基礎的な原理と方法を学び、基礎的な運動療法が実施できる。 ②関節可動域制限に対する運動療法が実施できる ③筋力低下に対する運動療法が実施できる ④筋緊張異常に対する運動療法が実施できる ⑤持久力低下に対する運動療法が実施できる ⑥感覚異常に対する運動療法が実施できる ⑦姿勢異常(臥位、座位、立位)に対する運動療法が実施できる ⑧運動能力低下・動作能力低下に対する運動療法が実施できる ⑨起居移動動作能力低下に対する運動指導が実施できる ⑩バランス・平行機能低下に対する運動療法が実施できる						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	関節可動域に関する障害						0.5/0.5	
第2回	関節可動域運動、伸張運動(実技含む)①						0.5/0.5	
第3回	関節可動域運動、伸張運動(実技含む)②						0.5/0.5	
第4回	筋力に関する障害						0.5/0.5	
第5回	筋力増強運動(実技含む)①						0.5/0.5	
第6回	筋力増強運動(実技含む)②						0.5/0.5	
第7回	筋力増強運動(実技含む)③						0.5/0.5	
第8回	全身持久力に関する障害 全身持久力増強運動、全身調整運動(実技を含む)						0.5/0.5	
第9回	協調性に関する障害 協調性運動(実技含む)						0.5/0.5	
第10回	中枢性麻痺・末梢性麻痺に関する障害						0.5/0.5	
第11回	神経筋再教育(実技含む)						0.5/0.5	
第12回	基本動作獲得・改善						0.5/0.5	
第13回	水中運動療法						0.5/0.5	
第14回	治療体操、リスク管理						0.5/0.5	
第15回	運動学習						0.5/0.5	
教科書		対馬栄輝/編『理学療法テキスト 運動療法学』MEDICAL VIEW						
参考文献		指定なし(適宜指示)						
授業方法		講義と実習						
関連科目		解剖学Ⅰ・解剖学演習・運動学Ⅰ・体表解剖学・生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、リハビリテーション医学						
成績評価基準と方法		授業態度(10%)・筆記試験(50%)・実技試験(40%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			実技ができる服装で臨むようにしてください。 関連科目の復習は適宜行っておくようにしてください。(授業内でどの部分をやってほしいかはアナウンス致します)					

開講年次		2年前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名		日常生活活動Ⅰ		担当教員【◎は科目責任者】				知・技
				◎松村 明保				
実務経験		○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		理学療法を実施する上で、日常生活動作も踏まえてアプローチ方法を考えなければなりません。この講義では、 ・日常生活を営む上で必要な基本的動作を学習する。 ・日常生活動作に関する評価方法を学習し、実施できる。 ・日常生活支援機器を用いた動作について学習し、使用方法を説明できる。 上記を講義・実技を通して学習していく。						
到達目標		①日常生活活動(食事・更衣・入浴・排泄・整容・移動など日常生活に必要な活動)について理解する。 ②基本動作の種類(寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行)について説明できる。 ③セルフケア能力低下の程度と関連要因を把握する評価を理解できる。 ④住環境(生活環境)の課題を把握する評価が理解できる。 ⑤車いすの種類を説明できる。 ⑥車いすの適用について説明できる。 ⑦車いすの調整(車いす用クッションを含む)を行うことができる。 ⑧シーティングのポイントを説明できる。 ⑨適切な座位姿勢のポイントを指導することができる。 ⑩座位姿勢のチェック(座圧分散の確認を含む)が実施できる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション						0.5/0.5	
第2回	ADLの概念と範囲、ADL分類 ICFの再整理、QOL評価について						0.5/0.5	①
第3回	ADL評価方法						0.5/0.5	①
第4回	質的評価(基本動作)						0.5/0.5	①②
第5回	質的評価(応用動作)						0.5/0.5	①②③④
第6回	量的評価(バーセル・インデックス)						0.5/0.5	①②③④
第7回	量的評価(FIM)						0.5/0.5	①②③④
第8回							0.5/0.5	①②③④
第9回	量的評価(FIM、その他のADL評価)						0.5/0.5	①②③④
第10回	歩行補助具の種類と使用方法(杖)						0.5/0.5	①
第11回	歩行補助具の種類と使用方法(松葉杖)						0.5/0.5	①
第12回	歩行補助具の種類と使用方法(その他歩行補助具、応用)						0.5/0.5	①
第13回	車椅子の種類と使用方法						0.5/0.5	⑤⑥⑦
第14回	車椅子の座位姿勢評価						0.5/0.5	⑧⑨⑩
第15回	まとめ						0.5/0.5	
教科書		柴喜崇/編『PT・OTビジュアルテキスト ADL』羊土社						
参考文献		千住秀明/編 理学療法学テキストⅤ『日常生活活動(ADL)』神陵文庫、斎藤宏/他著『姿勢と動作』メヂカルフレンド社、鶴見隆正/編 標準理学療法学『日常生活活動学・生活環境学』医学書院						
授業方法		講義、実技実習を中心に進めていく。						
関連科目		ADLⅡ、姿勢・動作分析学、PT評価学演習、PT評価学実習						
成績評価基準と方法		筆記試験、小テスト、グループワーク成果物						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。 積極的にグループワークに参加すること。					

開講年次		2年後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	日常生活活動Ⅱ			担当教員【◎は科目責任者】				知・技
				◎松村 明保				
実務経験		○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		本講義では、日常生活動作Ⅰで学習した内容を踏まえ、疾患と関連付けて考えることが出来るようになるために、 ・日常生活活動(ADL)と疾患について学習し、関連付けることができるようになる。 ・代表的な疾患における日常生活活動の動作介助及び指導方法を学習する(ADL支援機器を用いた動作も含む)。						
到達目標		①疾病別の日常生活活動(食事・更衣・入浴・排泄・整容・移動など日常生活に必要な活動)について理解できる。 ②セルフケア能力低下の程度と関連要因を把握する評価を実施できる。 ③臥位姿勢のチェック(体圧分散の確認を含む)が実施できる。 ④適切な臥位姿勢を指導することができる。 ⑤ポジショニングのポイントを説明できる。 ⑥適切な座位姿勢を指導することができる。 ⑦シーティングのポイントを説明できる。 ⑧セルフケア応力低下に対する生活指導が実施できる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション						0.5/0.5	
第2回	人工関節置換術に対する動作介助及び指導方法について (ADL支援機器を用いた動作も含む)						0.5/0.5	①②⑤⑧
第3回							0.5/0.5	
第4回							0.5/0.5	
第5回	脳卒中片麻痺に対する動作介助及び指導方法について (ADL支援機器を用いた動作も含む)						0.5/0.5	①②⑤⑧
第6回							0.5/0.5	
第7回							0.5/0.5	
第8回	脊椎疾患に対する動作介助及び指導方法について (ADL支援機器を用いた動作も含む)						0.5/0.5	①②⑤⑧
第9回	脊髄損傷(四肢麻痺・対麻痺)に対する動作介助及び指導方法について (ADL支援機器を用いた動作も含む)						0.5/0.5	①②⑤⑧
第10回							0.5/0.5	
第11回							0.5/0.5	
第12回							0.5/0.5	
第13回	要介護の方に対する動作介助について (ADL支援機器を用いた動作も含む)						0.5/0.5	③④⑤
第14回							0.5/0.5	⑥⑦
第15回	まとめ						0.5/0.5	
教科書	柴喜崇/編『PT・OTビジュアルテキスト ADL』羊土社							
参考文献	千住秀明/編 理学療法学テキストⅤ『日常生活活動(ADL)』神陵文庫、斎藤宏/他著『姿勢と動作』メヂカルフレンド社、鶴見隆正/編 標準理学療法学『日常生活活動学・生活環境学』医学書院							
授業方法	講義、グループワーク、実技実習を中心に進めていく。							
関連科目	ADLⅠ、姿勢・動作分析学、PT評価学演習、PT評価学実習							
成績評価基準と方法		筆記試験、レポート、グループワーク成果物						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。				

開講年次		2年通年		分野	専門	単位(時間)	1(45)	必須
科目名	見学体験実習			担当教員【◎は科目責任者】				知・技・思 判・ 表・態
				◎岡林豊、相星裕生、井口祥平、井口奈保美、市田修一、大井直樹、木下拓真、木村彩子、久保明裕、清水浩之、藤井隆太、松村明保				
実務経験								
科目のねらい		本講義では、診療録などから間接的情報収集や対象者への直接的情報収集(検査測定など)を通して、対象者の状態等に関する評価を実施する。また、実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型実習を通して、様々な疾患・状態の対象者に対して基本的な検査測定等の実施ができることを目標とする。さらに、得られた情報から障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案を学ぶことを目標とする。						
到達目標		①チェックリスト内の項目 (水準Ⅰ：指導者の直接監視下で実習生により実施されるべき項目)について可能な限り見学し、その意義・目的について学ぶ。 ②実習における各自の行動目標を明確化できる。 ③理学療法の対象者との関係性構築について理解できる。 ④チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割について理解できる。						
講義計画								
実習前客観的臨床能力試験(OSCE) 実習前多肢選択筆記試験(CBT) 実習前オリエンテーション 担当教員による個別オリエンテーション 実習に対する行動目標設定 学外実習(医療提供施設など)5週間 実習後ホームルーム 担当教員による個別FB 認知領域ワークシートのプレゼンテーション 実習後客観的臨床能力試験(OSCE) 実習後多肢選択筆記試験(CBT)								
教科書		臨床実習概要、臨床実習要項、その他適宜配布						
参考文献		指定なし(適宜指示)						
授業方法		OSCE、CBT、実習前オリエンテーション、実習、実習後HR						
関連科目								
成績評価基準と方法		形成的評価(実習指導者による情意領域ルーブリック評価、認知・精神運動領域チェックリスト)、提出物、総括的評価などにもとづき学校が行う。また、臨床実習という科目性質上、社会的基礎力の欠如を認めると判断される者については、実習への参加を認めない。実習前オリエンテーションを受講しない者に関しては、実習への参加を原則認めない。						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			実習施設の職員、指導者の指示に従い、 本校学生の立場をわきまえ行動すること。					